

成器地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日 時 平成28年7月20日(水) 19:00~20:00

2 会 場 成器地区公民館

3 出席者 地元出席者 13名
市側出席者 17名

深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、高橋防災調整監、田中中核市推進局長、田中企画推進部長、久野地域振興局長、岩井健康・子育て推進局長、綱田都市整備部長、渡邊秘書課長

<国府町総合支所>安本支所長、小林副支所長(司会)、加藤市民福祉課長、前田産業建設課長

<事務局>岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、北村協働推進課主事

4 中核市移行についての説明

(中核市推進局長) ※チラシに基づき説明

5 第10次総合計画についての説明

(企画推進部長) ※チラシに基づき説明

6 地域の重要課題について

1 いきいき成器保育園舎の老朽化に伴う耐震補強等々について

<地域課題>

いきいき成器保育園の維持管理については、軽微なものについては地元で補修や環境整備等を随時実施しているところです。近年園児も増加し、毎日元気に園舎内外で過ごしています。しかし、園舎は老朽化が進み、大規模な修繕等は極めて困難で危険も伴うという問題もあります。築30年を超え耐震強度もさることながら、老朽化の進む園舎での園児の保育は極めて危惧される状況となっております。これらのことについては、機会あるごとに鳥取市に要望し、実情はご理解いただいているものと思っておりますが、今後の具体的な対応方について鳥取市としての考え方をお聞かせください。

<担当部局の所見等>

【健康・子育て推進局】

いきいき成器保育園の施設管理については、本市と地元との協議により開園以来これまで、修繕等はすべて地元で行っていただき、必要に応じて原材料などを市で支給させていただいてきました。しかし、園舎も建築から44年を迎え老朽化が進むとともに、耐震診断により耐震性が低いことが確認されています。

本市としては、施設の耐震改修や大規模な修繕は困難であると考えますが、今後の保育園の展開や運営方針について聞かせていただきながら、対応を協議させていただきたいと

考えます。

(健康・子育て推進局長)

いきいき成器保育園は、平成20年の開園以来、地域活性化に貢献しておられ、平成27年には、恵まれた自然のフィールドを活用して保育を行う園として、鳥取県から「とっとり森・里山等自然保育認証」を受けられるなど、自然保育に取り組んでおられます。

前身のいずみ保育園は園児数が年々減少して集団保育が困難になり、さつき保育園との統合によって廃止になりました。その際、地域に保育園を残すことができないかと、地域が運営主体となって旧いずみ保育園の園舎を活用して保育施設を運営することとなり、いきいき成器保育園として開園した経緯があります。いきいき成器保育園の開園に伴い、本市では運営費の助成として開園以来210万円を助成しており、小規模修繕については、必要に応じて錆止め塗料などの原材料を支給し、地域の関係者の方により修繕していただいています。園舎は、地域の運営のために鳥取市が無償貸与していますが、昭和47年12月建築で築44年を経過しており、老朽化が進み耐震性が低いと診断されていますが、本市としては施設の耐震改修や大規模修繕は難しいのではないかと考えています。

いきいき成器保育園の今後の運営について地域としてどのような考えを持っておられるのか、保育園の今後の展開や運営方針についてお伺いした上で鳥取市として今後どのようなことができるのかなど、今後の対応についてお話をさせていただきたいと考えているところです。

(地元意見)

私は以前から、鳥取市を一度に全て良くすることはなかなか難しいのではないかと考えています。特色のある取り組みを実施しているところを一つのモデルにして、重点的に地域課題を解決できるよう、行政と一緒に取り組んでいくことが大切だと思います。今までに何度か、成器地区をモデル地区にしてくださいと訴えてきた記憶があります。例えば、保育園も一つのテーマだと思いますし、殿ダムも一つのテーマだと思います。

私は今、保育園に関わっています。いきいき成器保育園は、来年10年目を迎えます。正直なところ、ここまで続くとは思いませんでしたが、地域の者の情熱と、支えていただく県や市の厚意によってここまで歩んでこられたのだと思います。せっかくここまで来たものを、10年と言わず、15年、20年と続けることで地域の活力につなげることができないものかと思っています。

いきいき成器保育園の財源は、平成20年のスタートから一定額で、9年間変わっていません。出生率や子育て、待機児童、過疎地への定住などのテーマの中で、保育の場とい



うのは全国的に非常に大きなウエートを占めるのではないかと思います。補助金額を少し引き上げ、安定した運営ができるよう市としての強力なフォローをお願いしたいです。財政状況が厳しくなっていることも分かっていますが、児童の増加に伴い運営費も増加します。保育園に勤務していただいている皆さんも、ここで言うように驚かれるような金額で頑張ってください。ボランティアに支えられている部分も多分にあります。そういったことも含めて検討してほしいです。発足当初と比較して何倍にも園児が増加しているのに9年間同じ金額で運営を維持していく点で、地元が大変苦労していることをよく考えていただき、明るい方向を示してほしいです。そのことが、中核市の構想や第10次総合計画につながるのではないかと思います。

(深澤市長)

平成20年に開園したいいき成器保育園の運営については、地元の皆様のご尽力をいただきながらここまでできたと思っています。今後も存続できるよう、鳥取市としてどういうことが可能なのか、しっかり考えていかなければならないと思っています。今、人口減少にどう対応していくか国を挙げて取り組まなければならない時期にあります。そして、日本のそれぞれの地域の人口がこれ以上減少していかないよう、しっかりと取り組んでいかなければなりません。これが、地方創生の中でも非常に重要な取り組みだと考えています。その中で、子育てがしやすい環境を整えていくことが、我々が取り組むべきことだと考えています。

昨年度、「子ども・子育て支援新制度」という新しい制度がスタートしました。今までと比較して、少し柔軟な対応ができるようになってきたところです。小規模保育園等の運営についてのさまざまな支援制度も出てきています。そう考えると、成器地区は他に先駆け、地域を挙げて子育て支援等に取り組んでこられたとの認識を持っています。そのことについて、感謝申し上げます。

今後の運営等については、改めて地域の皆様と意見交換等をさせていただき、市としてどういったことをさせていただけるか、今一度しっかりと考えていきたいと思っています。

2 日ノ丸バス乗継拠点鳥取行き（下り）バス停待合所の設置について

<地域課題>

日ノ丸バスの中河原線路線再編に伴い、雨滝上地線の下り便ハイエースから、鳥取駅行きバスに乗り継ぐ場合の待合所が設置されていません。炎天下、風雨、降雪時等々外での待合は大変（高齢者の乗車が多い）です。早急に対応をお願いします。

<担当部局の所見等>

【都市整備部】

中河原線については、平成28年4月から路線を再編し実証運行を開始しています。この路線再編においては、幹線と支線の乗継が発生することから、待合所の設置など乗継環境を整えることが必要となるものと認識しています。

乗継場所については、当初は全て中河原バス停としていましたが、6月からは、鳥取方面への午前中の便について乗継場所を山崎橋バス停に変更し、バス停で待機するバスに直

接乗り継ぐこととしています。これは、バスtoバスの乗継により乗継環境の改善を図ろうとしたものです。

現在は、全ての乗継を山崎橋バス停に変更し、全ての便において直接乗継とすることができないか、検討しているところです。

このため、当面は、山崎橋での全便、直接乗継を試行しながら設置場所も含め待合所の設置について検討していきたいと考えます。

(都市整備部長)

中河原線については、平成28年から路線を再編して実証運行を開始しており、現在は、鳥取から中河原間を幹線、中河原から奥を支線として、支線部分については予約を受けて小型自動車でお越しいただき、そこから通常の路線バスに乗り換えていただくという運営をしているところです。

幹線と支線に分けての運営ですので、乗り継ぎ環境が重要になってくることは市としても認識しており、6月以降、午前中の一部の便において、小型自動車から路線バスへの乗継を中河原から山崎橋に変更し、回し場のような所を設けてバスからバスへ直接乗り継ぐ試みを始めています。通常は、一度小型自動車を降車して路線バスの時刻まで待つていただいていたのですが、自動車の中で待機いただくことにより、風雨や暑さ、寒さを凌いでいただくなど、自動車自体を待合所の代わりにしていただくことができます。現在は午前中の一部の便ですが、今後は全便を同じ形にできないか検討しているところです。

今後の検証の中で、バスからバスへの乗り継ぎの待ち時間にずれが生じることも予想されます。例えば乗継の待合所を中河原に設置するのがよいのか、それとも山崎橋に設置するのがよいのかといった乗継場所や必要性も含め、引き続き検討していきたいと考えています。

実証運行として始まったばかりで、皆様にはご不便をおかけしている部分も多々あると思いますが、本市としても乗りやすい環境を目指し、知恵を絞りながら地域の皆様と一緒に改善していきたいと考えています。

7 市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

(地元意見)

殿ダム記念広場は以前と比較すると活用されていますが、夏は暑く、活用が非常に少ないです。そのため、夏の間だけでも河川で遊べるよう国土交通省や市に要望してきており、広場の工事の際に階段を設置してもらい、昨年は国土交通省に小川をつくっていただきました。

先日も保育園と国府東小学校の交流で、子ども達が河川で遊びました。事前に国土交通



省に依頼して草刈りや河川整備を実施してもらいましたが、その都度依頼しなくても、夏の間、殿ダムの記念広場と一体的に子ども達が河川で遊べる環境づくりを、国土交通省に要望してほしいです。下流は県の管轄であり、一度、県知事に話をしたこともあります。県の管轄になると費用のことが絡むので、国土交通省にという話もありました。何とか国土交通省の管轄の範囲で、水辺の楽校のようなものが検討できないか要望してもらえないでしょうか。

(深澤市長)

殿ダム記念広場は、現在、指定管理者に管理をお願いしており、殿ダム音楽祭も中心になって取り組んでいただいておりますが、ご要望いただいた辺りは、指定管理業務に入っていないような所もあるようです。指定管理の更新時期には、そのあたりも含めた管理を依頼することが可能かどうかといったことも含めて検討してみたいと思います。併せて、いろいろな機会がありますので、国土交通省にもまた打診してみたいと思います。課題として承らせていただきます。

(地元意見)

市の幹部に10数名も来ていただいたが、地元の者の出席者が少なく申し訳ないと思っています。でも、私達にすれば、いくらインターネットや「市長への手紙」があっても、このような至近距離で親しく市長と会えることはめったにありません。地域づくり懇談会は2年に一度の開催で、このサイクルはやむを得ないと思います。短縮することは難しいと思うので、2年に一度は必ずあるという気持ちで地域の皆が楽しみにできるような懇談会のあり方を検討してほしいです。

例えば、地域づくり懇談会では、地元の者は必ず何かの要望や意見を言い、市が真剣に検討した内容を親しく聞かせてもらっています。その後フリートークになりますが、土地柄もあり、思ったことを言いにくいということもあると思います。市の中核市や第10次総合計画の説明も、とても良いことで本当は我々に直接関係のあることなのに、なぜか説明の中身が飲み込みにくいです。「例えば成器はこうなりますよ」という、もう少し具体的で分かりやすい説明をしてもらえるとよいです。また、「成器でこんなことはできませんか」という提案など、もう少し突っ込んだ話が聞かせてもらえるとよいです。

いきいき成器保育園は平成20年にスタートしましたが、その数年後に森のようちえんが話題になりました。今でも森のようちえんはかなり多くの方の支持を得ていると思います。いきいき成器保育園がスタートして数年後に、「鳥取市には森のようちえんのような所はないのですか」と市民が当時の市長に聞いたと伺っています。それを受け、いきいき成器保育園で森のようちえんができないかという話が出たことが、一つの大きなきっかけではなかったかと私は思っています。地元の者がそこに懸命に食いついて実現する方向に向かったことが、今の保育園の前提ではなかったかと思えます。

少し高い所から見たら、「成器ならこうすればできるのではないか」と見えることもあると思います。成器地区は、よそに負けない情熱を持っていると自負していますので、上手にそれを引き出して一緒に進むことを、地域づくり懇談会のテーマにしてはどうかと思います。これは成器地区だけでないと思います。他地区でもその地区に合う突っ込んだ説

明をすれば、「ああ、おもしろかった」、「何かできそうだ」ということになりはしないかと思えます。

(深澤市長)

ありがとうございます。限られた時間の中で十分な説明をさせていただけていない部分もあると思います。特に第10次総合計画や中核市移行の説明が十分ではなかったことは、我々も反省しなければならないと思います。今後、できる限り分かりやすく丁寧な説明を心がけていきたいと思えます。

地域づくり懇談会も、古くは約40年前に「地区めぐり」と称して開催してきました。普段は市民の皆様在市役所にお越しいただいておりますが、市長以下幹部が地域に出向かせていただき、ざっくばらんにいろいろな課題について意見交換させていただこうという趣旨で始まったものですので、いわゆる「膝を交えて」話し合いの機会を持たせていただく会であると考えています。

いきいき成器保育園を例として挙げていただきましたが、昨年度から新制度もできていますので、地域の皆様と今一度、まさに膝を交えて意見交換をさせていただき、今後の運営やあり方を探っていくことができると考えています。

森のようちえんは、現在17名という本当に多くの子どもさんが、地元国府町はもとより、各地から通園しておられます。これもひとえに地元の皆様の情熱、熱意、ご尽力の賜物だと思っております。今後も、存続に向けてしっかり運営していただけるような方法を探っていきたいと思えます。早速、児童家庭課も出向かせていただき、現状から改めてお話を伺い、一緒に考えていくことができると考えています。

(地元意見)

バード・ハットの近辺、あるいは大丸の壁面などになるかと思えますが、鳥取駅前に電光掲示板を作って、鳥取市の市民向けの情報や観光客等への鳥取市の宣伝を流してはどうでしょうか。鳥取をアピールする場が欠けているように思えます。他の自治体では、努力して市民向けの情報を流したり、宣伝などを流したりしています。鳥取駅前は寂しいです。天気の良い時は、サラリーマンなど出張で来た方が駅前に結構座っておられますが、見る所もありません。そういう時に電光掲示板で鳥取市のアピールをするとよいと思えます。市役所も近くにできます。ただ市役所の敷地でそういう掲示をしても見る人は少ないので、駅から見ることができる駅前がよいと思えます。

(深澤市長)

ご提案ありがとうございます。

市役所新庁舎もいろいろありましたが、基本設計がほぼ終盤に近づいており、市役所内部の3D映像もご覧いただけるようになりました。

今から3年後、平成31年7月には新庁舎が旧市立病院跡地に建ち上がります。また、昨年には鳥取駅前の一面に医療看護専門学校が開校し、今年度は2年度目になりました。来年度は3年度目で3学年の学生がそろい、鳥取駅周辺もますます賑やかになってくると思えます。この状況の中、観光客の皆さんを含め、もっと情報発信していくべきではないか

とのご提案ですが、私もその通りだと思います。新庁舎でも情報発信をしていく必要があると考えていますので、駅北も何か考えていかなければならないのかなと思っています。

電光掲示板とのご提案でしたが、方法はいろいろあると思いますので、検討させていただきたいと思います。

8 市長あいさつ

(深澤市長)

一言、お礼のご挨拶を申し上げます。大変限られた時間でしたが、いろいろなご提案、ご意見をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

バス実証運行事業等の上屋に関するご意見をいただきましたが、これも必要なものだと考えていますので、もう少し状況を見極めながらご相談させていただき、必要であれば上屋等も設置していかなければならないのではないかと考えています。また、いきいき成器保育園の運営についても、今後さらに皆様と意見交換等をさせていただく機会をいただければありがたいと思います。今後ますます、地域で、そして皆で子育てを支援していくことが大切になっていくと思います。その先駆けとしてこのような取り組みをしていただいていることに対し、改めて敬意と感謝の意を表したいと思います。

この地域づくり懇談会は2年に一度の開催ですが、いろいろな機会に我々も成器地区に出向かせていただければと思っています。また、さまざまな機会を通してご意見、ご提言をお寄せいただければありがたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

熱心にご議論いただいたことに重ねて感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。